イールドカーブ・コントロール(YCC)の運用の柔軟化

- 2%の「物価安定の目標」の持続的・安定的な実現を見通せる状況には至っておらず、粘り強く金融緩和を継続する
- 経済・物価を巡る不確実性がきわめて高い中、YCCの運用を柔軟化し、金融緩和の持続性を高める

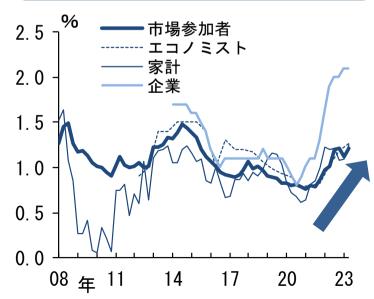
従来 柔軟化後 指値オペで % 機動的な 指値オペで 10年金利を厳格に抑制 1.5 1.5 オペで対応 10年金利を厳格に抑制 1.0 1.0 0.5 0.5 長期金利の 長期金利の 0.0 0.0 変動幅 変動幅の目途 -0.5-0.5-1.0-1.0-1.5-1.5

物価見通し

対前年度比、%、政策委員見通しの中央値

	CPI 除く生鮮食品	(参考) 除く生鮮食品 ・エネルギー
2023年度	+2. 5	+3. 2
4月見通し	+1.8	+2. 5
2024年度	+1.9	+1. 7
4月見通し	+2. 0	+1. 7
2025年度	+1.6	+1.8
4月見通し	+1.6	+1.8

予想物価上昇率



(注) 市場参加者はQUICK月次調査、エコノミストはESPフォーキャスト 家計は生活意識アンケート調査、企業は短観。

運用の柔軟化により 金融緩和の持続性を高める

- ▶ 経済・物価が上振れる場合
- ✓ 実質金利は低下
- ✓ 市場機能等への影響を軽減
- ▶ 経済・物価が下振れる場合
- ✓ 長期金利は低下